



- ◆遊ぶ・学ぶ・食べる
- ◆老壮若が出会い、遊び・子育て・学習を支援。
- ◆近所に子ども食堂を！

すくすく通信 第10号（増補版）  
2021年9月30日発行  
発行：一般社団法人すくすく広場  
代表：丸山 綱男  
事務局・発行所  
〒347-0031 加須市南町 7-67 戸恒方

りました。その後は自粛しています。かわりに支援の

## 5年目のすくすく広場

### 日々新たに対応した 2020 年度

理事長 丸山 綱男

小さなウイルスが起こした世界的な問題により、何気ない日常の大切さを実感する一年でした。

このような状況下であっても、すくすく広場は「心の感染」に最大限の注意を払いながらも、地域子育て支援拠点の自覚を深めることに力を入れてきました。そのためには「身近なことから、できることから機を見て動く」という使命を身に付けました。また、「自分を心配してくれる人がある」と思い合える地域づくりにも、心を配りました。

今後、ふるさと地元の課題に対して「見て・見つめて・見極めて」いく思いの深さを持ちたいと思います。そして、未来を拓いていくすくすく広場でありたいと願っています。

この一年間、すくすく広場に対してご支援・ご賛同いただきました、地域の皆様、関係者の皆様、加須市当局、そして笑顔でお会いできた皆様方に、心より御礼を申し上げます。



必要な子どもたちに直接届けるため、埼玉県子ども食堂ネットワークや加須市の子育て支援課様のご協力で、お弁当配布と、プチ・パントリーを実施しました。

お弁当は、3月後半から連休前までの一斉休校の期間、プチ・パントリーは毎月1回、給食センター、(株)ブルーナ様、赤い羽根様、真如苑様、(株)餃子の王将様などの寄付をもとに、小学校長のご協力に対象者を広げ、市内の「しずくの会」や「つくしの家」さん、子育て支援課や加須社協と協力して実施できた点が大きな進歩でした。

また、夏休みには、市内26の飲食店様と2つの子育て応援フードパントリーさんの協力で、全国子ども食堂支援センターさんの支援金を原資に「かぞぐるみおべんとプロジェクト」を実施し、一人親の176家庭にテイクアウト弁当のサービスをご利用いただき、町ぐるみで子育てを応援する雰囲気づくりの企画が、高い評価を得ました。関わったスタッフは、協力店の皆さまを始め、多くの市民が子育て応援のお気持ちを持っていらっしゃることに感激しました。

秋口には埼玉県子ども食堂ネットワークの企画で、農水省、西武球団様が支援した「食べて応援どんぶり祭り」に参加し、都合3回のべ450食を配布しました。この後からは、子育て支援委員会の機能を充実させ、暮れからの「むすびえ第5回緊急支援金」や「赤い羽根さいたま」様の支援により「元気にスタート新年お楽しみパントリー」を12、1、2、3月の4回実施

## ピンチをチャンスに！

### コロナ禍の下でも頑張ってきました

#### ①あそびひろばの新しい展開＝2020年

昨年3月以降、コロナ禍のもと、多人数でのあそび広場の通常開催が出来なくなり、6月に1回と9月10月に1回ずつ、人数を半数にしての野外での開催とな

しました。

## ②ミラコバト事業を終了

子育て支援委員会（金谷京子委員長）が聖学院大学とコラボして、双葉から避難された家族を支援する事業を、上尾市シラコバト団地で継続して来ましたが、10年を区切りに活動を終了しました。

その後は、加須市内にねらいを置き、12月以降の



どんぶり祭りの配達や、12月から毎月のプチ・パントリーで活動しました。

## ③小中高生勉強会（軽食付き無料塾）

市民プラザかぞを会場に、毎週木曜日の勉強会を継続しました。緊急事態宣言で、3月から5月までと、2月から3月一杯が休止となりましたが、再開時には生徒を前後半・2部屋に3分割しコロナ対策を徹底し、長期休業中の集中勉強会を個別指導に切り替えるなどして、10名のスタッフが粘り強く指導に当たりました。

また、コロナ禍の下での学習支援のあり方を検討した「リモート学習と対面指導を両立する学習支援」の



企画が内閣府の「子どもの未来応援基金」に採用され令和3年4月から実施しています。これには地元の平成国際大学の熱心なボランティア部の学生さんたちが積極的に参加してくれています。

## ④愛泉寮との交流

児童養護施設愛泉寮とは、あそびひろばを共催してスタッフ間で経験を交流してきました。土曜の夕食後に子どもたちと紙飛行機を制作する **KAZO SKY FRIENDS** はコロナの影響で去年は1回しか開けませんでした。材料を届けることを続け、子どもたちも「早く再開して！」と熱望しています。

## ⑤ホームページの管理と再構成

HPの管理・更新の他、去年はHPを大きく再構成し、よりわかりやすく、探しやすい画面にリニューアルしました。また、どんぶり祭りではHPを通じて申し込みをしていただく仕組みを作りました。

## ⑥講演会の開催と、小研修の積み重ね

小研修会は、毎月1回、月曜日に開くすくすくサロンで行っています。毎回メンバーが交代して、自分の追い求めて来たテーマを披露したり、すくすくの活動の感想を述べあったりして、楽しい雰囲気の中で、問題意識を共有するようにしています。なお、このすくすくサロンは会員以外の方にも開かれています。またZoomでの参加も出来ます。

## ⑦地域での連携・交流

### ⑦共に歩む市内の子ども食堂

すくすくのあそびひろばと、小中高生勉強会はどちらも「食べる」ことにも力を入れた子ども食堂ですが、つくしの家さんが南町で、北小浜みんなで子ども食堂さんが県営団地で活動しているのに続いて、愛泉寮でのスカイフレンズ、本町のおてら食堂、パストラル加須のまごころ食堂がスタートして、市内の子ども食堂は7つになりました。

どれもそれぞれの個性を大切にしながら、横に手をつないで、加須市内での活動を進めています。

また、子育て応援フードパントリーは、加須、あいせん、加須北、光の子どもの家、騎西の5会場に増えました。

そして、同じ加須市内で子育てを応援する団体同士



として、常に連絡を取り合い、顔の見える協力関係を大切にして、互いに補い合うため、21年4月に**連絡会**をスタートしました。

これには、子育て支援課を窓口とする加須市役所、社会福祉協議会も入ってくれて、フードドライブを開催するだけでなく、地元の方々や企業さんと我々をつなぐ役目を負ってくれることになっています。

### ④ネットワークとの連携、各団体からの寄贈や補助

この1年半は、コロナの影響で苦しんだ1年でしたが、ある意味では子育て応援の雰囲気があるように盛り上がった1年でもありました。特に全国的な規模の支援事業に頼るだけでなく、加須市では、フードドライブ（食品を子どもたちのために集める催し）をはじめ、市役所・社協、企業さん、農家さん、飲食店さんなど、地元のパワーが、いち早く子育て応援に動き出してくれている点が何と言っても心強いです。

埼玉県子ども食堂ネットワーク（本間香代表）には、18年から加入し、団体保険に加入出来たほか、折々に貴重な食材の提供を受けたりして来ましたが、現在では加須が、県北方面で子ども食堂の運動を進める拠点としての役割を期待されるようになってきました。実際には、埼玉エリアと呼ぶ加須、羽生、久喜、行田、幸手の5市にある14の子ども食堂と、8つの子育て応援フードパントリーが集って、2ヵ月に1回の交流会を開き、お互いの経験や相談事を出しあいながら、支え合っています。

また、この間にすくすく広場が果たしてきた役割が各方面に認知され、21年度には、加須市の地域市民活動支援補助金（いっしょにとりくもうコース1年目）、キューピー財団やオリックス宮内財団の子ども応援基金、赤い羽根さいたま、浦和競馬こども基金などの支援金を受けることになりました。また、地元のパン屋さんやキャベツ業者、農産会社さんからの貴重な食品提供、連合埼玉の埼玉フードネットワークの幹

旋でわくわく広場さん（菖蒲のモラージュ内の食品店）との直接のルートも作れました。

お米や野菜、調味料、絵本など、これまでにご協力いただいた方々のお名前をご紹介します、お礼申し上げます。

また、会員の丸山綱男さん、鈴木幸枝さんは自宅農園で野菜を育て、毎回子どもたちが食べる光景を楽しみにしておられます。



### ⑦寄付等のご支援（2020年夏～21年夏）

- ・ 榎中森農産様（お米）
- ・ エミュウ ベーカリー様（パン）
- ・ 榎市流様（キャベツ）
- ・ 榎フジッコ様（黒豆、昆布佃煮など）
- ・ わくわく広場様（モラージュ内食品店・野菜）
- ・ 花王ロリエ様（生理用品ほか）
- ・ 大塚薬品様（ドリンク、レトルト食品）
- ・ 日本レンタリース様（お米）
- ・ 榎ナオイ様（お米）
- ・ ケンコーマヨネーズ様（調味料）
- ・ I K E A様
- ・ ハーベス様
- ・ 榎磯見海産様（ちりめんじゃこ）
- ・ 榎松岡様（ちりめんじゃこ）
- ・ 榎七和様（煮イワシ）
- ・ 長岡フーズファクトリー様（野菜レトルト他）
- ・ ケンタッキーフライドチキン様（鶏肉）
- ・ 千津井商店様（お米・おてら食堂に）

#### ・ **フードドライブ（食品を集めて寄贈）**

- ・ 加須市役所様・加須社協様・民生委員大会様・加須郵便局様・加須商工会女性部様・埼玉りそな銀行加須・騎西支店様
- ・ 埼玉県子ども食堂ネットワーク様（食材配布）

#### ・ **資金提供**

- ・ 赤い羽根さいたま様
- ・ 全国子ども食堂支援センター・むすびえ様
- ・ 子供の未来応援基金様
- ・ 榎キューピー様
- ・ オリックス宮内財団様
- ・ 浦和競馬こども基金様
- ・ 加須市様（地域市民活動支援補助金）

## ㊤個人からのご寄付

- ・仲村正昭様（旗井）・金子秀行様（新川通）
- ・池田裕美子・一夫様（外野）・野中重雄様（大桑）
- ・関口雅史様（鴻荃）・松本雅弘様（礼羽）
- ・江田勝義様（栄）・堀江房子様（志多見）
- ・渡辺諭志様（松永新田）・関根幸子様（南町）
- ・野崎ひとみ様（三俣）・中島利明様（久喜）
- ・新井正江様（飯積）・大島夏緒里様（東栄）
- ・関谷武美様（大越）・大西りえこ様（田ヶ谷）
- ・渡辺洋子様（正能）・埴原千代喜様（さいたま市）



## 2021年度正会員・賛助会員

大原浩子、小岩真知子、小林宏子、坂本佳代子、佐藤富士子、鈴木幸枝、鈴木豊昭、田ヶ谷実、関口一夫、関口はつ子、小林いずみ、高野勝良、田村信征、戸恒和夫、戸恒香苗、中島君子、庭山正幸、庭山泰子、藤井昌子、丸山綱男、鈴木智子、金谷京子、坂本佳代子、赤嶺菊枝、柳澤和義、菊池真砂子、黒川久仁子、増田雄一、小林いづみ、佐々木佳子、周防幹雄、周防和子、野瀬慎一、林実、石塚洋子、本多宏、杉沢正子、須賀やす枝、浦部牧子、金子龍一、井戸川克隆、福島美佐子、山崎瑞枝、山宮世津子、布施杏子、長尾吉彦、柿沼聖子、河野京子、河野光俊、江森淑子、天野洋子、片山俊亮、山口哲司  
日本臨床発達心理士会埼玉支部  
南雲武雄、畑中美恵、

## ㊤2021年度の動きから

以上、ご報告してきましたが、毎月開催する昼食付きの「すくすくのあそびひろば」は、4月以降も、残念ながら、開催を見合わせています。また小中高生勉強会は緊急事態宣言期間を除いての実施で頑張っています。いずれも、公共施設を利用しての制約を受けてのことですが、コロナ感染を避ける意味では必要な措置だと考えています。ただ、「今こそ大切な時期」との思いから、ほぼ毎月、各方面から頂いたご寄付の品々をお届けする「プチ・パントリー」を続けて、ほんの2～3分の時間ずつでも顔を合わせて来たことや、9台購入できたパソコンを使用してのリモート学習支援を導入し、それぞれつながりを保てたことなどは、「コロナに負けるな!」「かわりにできることは何か?」の思いで「見て・見つめて・見極めて」、機敏にチャンスをとらえ、活動を積み重ねて来た成果だと思います。

一方で、「北小浜みんな子ども食堂」や、光明寺「おてら食堂」、南町の「つくしの家」さん（田口会長と吉田夫妻が主宰）など、地域密着型の子ども食堂は、お弁当作りを始め、小規模で小回りの利くことを逆に生かして、個別のつながりで粘り強さを発揮しています。

いつまで続くかわからないコロナ禍の下で、かけがえのない時空間を奪われ続ける子どもたちを前に、私たちはいかにも微力ですが、それでも「何ができるか?」を考え続けていて、また、それを相談し、実行できる仲間と、これまでに築いた家族との関係を持っています。

読者の皆さま方のお知恵とお力をいただきながら、これらの力を活かし、子育て応援、町中に小さな子ども食堂への歩みを、続けていこうと思います。  
戸恒和夫（事務局長）



あそびのなかに  
たくさんの  
まなびが  
かくされている

撮影・庭山正幸



元気が出ます。

左上から；童話タイム、丸ちゃんのかがくのとびら、  
しんぶんしたいふう、羽生の杜たんけん、木立の中で、ボ  
ールハウス。 撮影；庭山正幸